シリーズ 探訪 わが町文化財 その65

藤並城跡の発掘調査速報

引き続き、藤並城跡の発掘調査成果についてお知らせします。今回は、土塁（どるい）の調査についてです。

土塁とは、土を盛り上げて築いた土手状の施設のことであり、城跡では堀とセットをなして敵の侵入を防ぐ役割を果たしています。土塁は、堀を掘った土を用いて築かれることが多く、堀の幅が広い場合は土塁の規模も大きい傾向にあります。藤並城跡では後世の改変によってその規模はさまざまですが、四方を巡る土塁が今も残されています。

土塁の発掘調査は、幅が13ｍと最も規模が大きい南側の土塁を対象に行いました。調査を進めていくと、地表面から40㎝程度掘り下げた地点で、焼けて赤く変色した瓦や土壁が多量に出土しました。この付近では、地面も赤くなっていることから、近くに存在した瓦葺（ぶ）きの土蔵のような建物が壊された後、火を付けられたと考えられます。出土した瓦は、室町時代後期頃の特徴を持つものであり、北堀の調査においても同時代の焼けた瓦が出土していることから、城内には室町時代後期になって瓦葺きの建物が多く建てられるようになったと考えられます。

さらに土塁内部の状況を調査した結果、南端部には、全国的にも大変珍しい鎌倉時代に築かれた土塁が存在することが確認できました。鎌倉時代の土塁は幅3.5ｍ、高さ1.4ｍの規模があり、藤並城跡の築城年代が鎌倉時代にまで遡ることが判明しました（写真下の赤線部分）。

近畿地方では鎌倉時代にまで遡る城跡はほとんど知られておらず、鎌倉時代の城跡に土塁が存在したかどうかについては、これまではっきりしたことが分かっていません。今回、藤並城跡の調査によって鎌倉時代に土塁によって囲まれた城跡の存在が確認できたことは、大変貴重な発見といえます。

焼けた瓦・土壁（中央の瓦の大きさ約30㎝）

土塁内部の状況（写真中央が鎌倉時代の土塁）

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野2018-4
●有田川町役場企画財政課 TEL 0737-52-2111(代)
●E-mail aridagawa@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページ URL http://www.town.aridagawa.jg.jp

VEGETABLE OIL INK